

統計調査の利活用に関わる 効果の測定方法の私論

阿部 正浩(中央大学)

坂爪 洋美(和光大学)

高畑 純一郎(獨協大学)

はじめに

- “政府が作成する統計は、本来幅広い目的に提供されることを意図した「公共財」としての性格を持つべきであり、政府にはそれを供給する役割がある”（委員会報告、2005）
 - 『社会の変化と統計情報』第1章「公共財としての統計」（金子、2009）で整理。
- “公共財として提供する以上、その対価として国民の負担が求められ”、“統計の場合には国民は対価としての情報提供が求められる”（腰原、2003）
- “ソフト面での社会資本”（升本、2009）
- “莫大な公費を投じて作成されたデータは国民全体の貴重な財産であり、この財産を、公正で有効に活用できる体制を整備することは、国民生活の質の向上に大いに寄与する”（井伊、2010）

2. 具体的手法

□ 公共財の価値の測定

- 公共財 ≡ 社会資本 ≡ 公的資本

□ 具体的手法

- 消費者への便益が中心のケース
 - ヘドニック法
 - 仮想評価法 (CVM)
 - トラベル・コスト法
 - 消費者余剰アプローチ
- 生産面への影響重視のケース
 - 産業連関表アプローチ
 - マクロ計量経済モデル
 - 生産関数アプローチ
 - CGEモデル (シミュレーション)

消費者への便益が中心のケース

□ ヘドニック法(資本化仮説)

- 公共財ができる前後での利便性に変化が、地価にも反映されているとする仮説。
- 地方公共財の文脈で有効。

□ 仮想評価法(CVM): 支払い意思額

- 公共財に対して、どの程度の支払い意思額を持つか調査して集計。
- 幅広く応用が可能。
- 公共財に対する真の選好を報告するインセンティブがあることが前提。

□ トラベル・コスト法

- 公共財のある訪問地までの旅行費用と訪問回数との関係から、公共財の価値を評価。
- 移動して利用する公共財には適用可能。

□ 消費者余剰アプローチ

- 政策評価向けに消費者余剰分析を応用
- 便益のうち利用者便益が大きいと適用可能
- 手法は理解しやすいのがメリット
- 需要予測が困難だと推計不可能。

生産面への影響重視のケース

□ 産業連関表アプローチ

- 生産要素の変化をモデルに導入して、社会全体の生産量の変化を計測。
- 生産量の変化を見る際に有効。

□ 生産関数アプローチ

- 社会資本を含む生産関数を想定
- 社会資本が生産性に及ぼす影響を分析
- 供給面のみからの分析にとどまる。

□ マクロ計量経済モデル

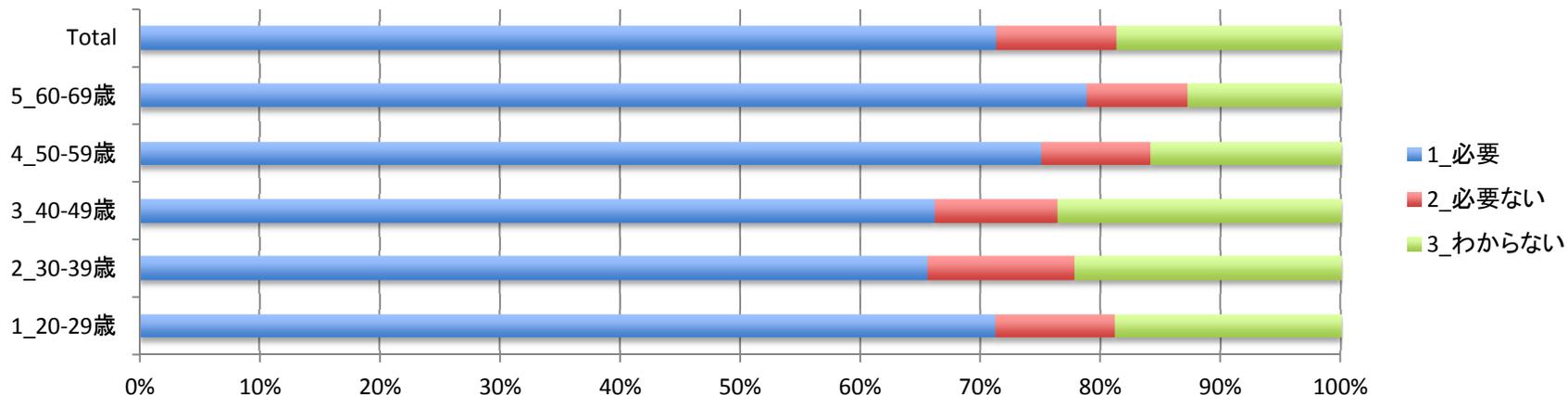
- 過去データから複数部門のマクロモデルを推定
- 公共財の変化による生産の変化を計測。
- 後ろ向きのモデルに基づいている。

□ CGEモデル: 計算可能一般均衡モデル

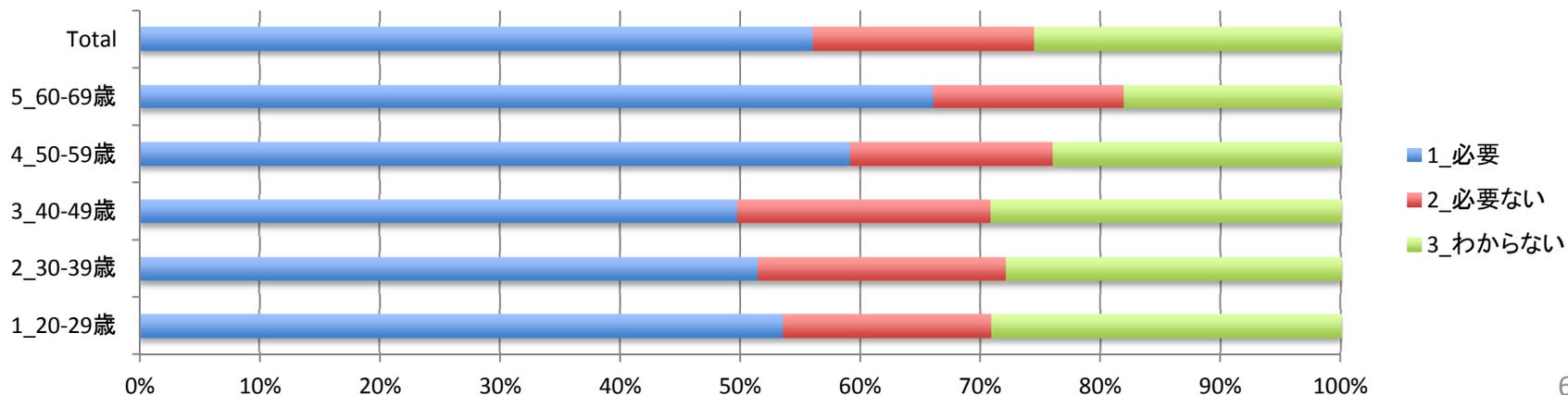
- ミクロ的基礎を持つ経済モデル
- 社会資本を導入したときに、各主体の反応を加味して影響を分析。
- 詳細まで現実を考えることは困難

統計情報提供の必要性について

あなたは、先ほどQ13_1からQ13_9でご覧いただいたような情報を、国が国民に提供することを必要だと思いますか。(回答は1つ)

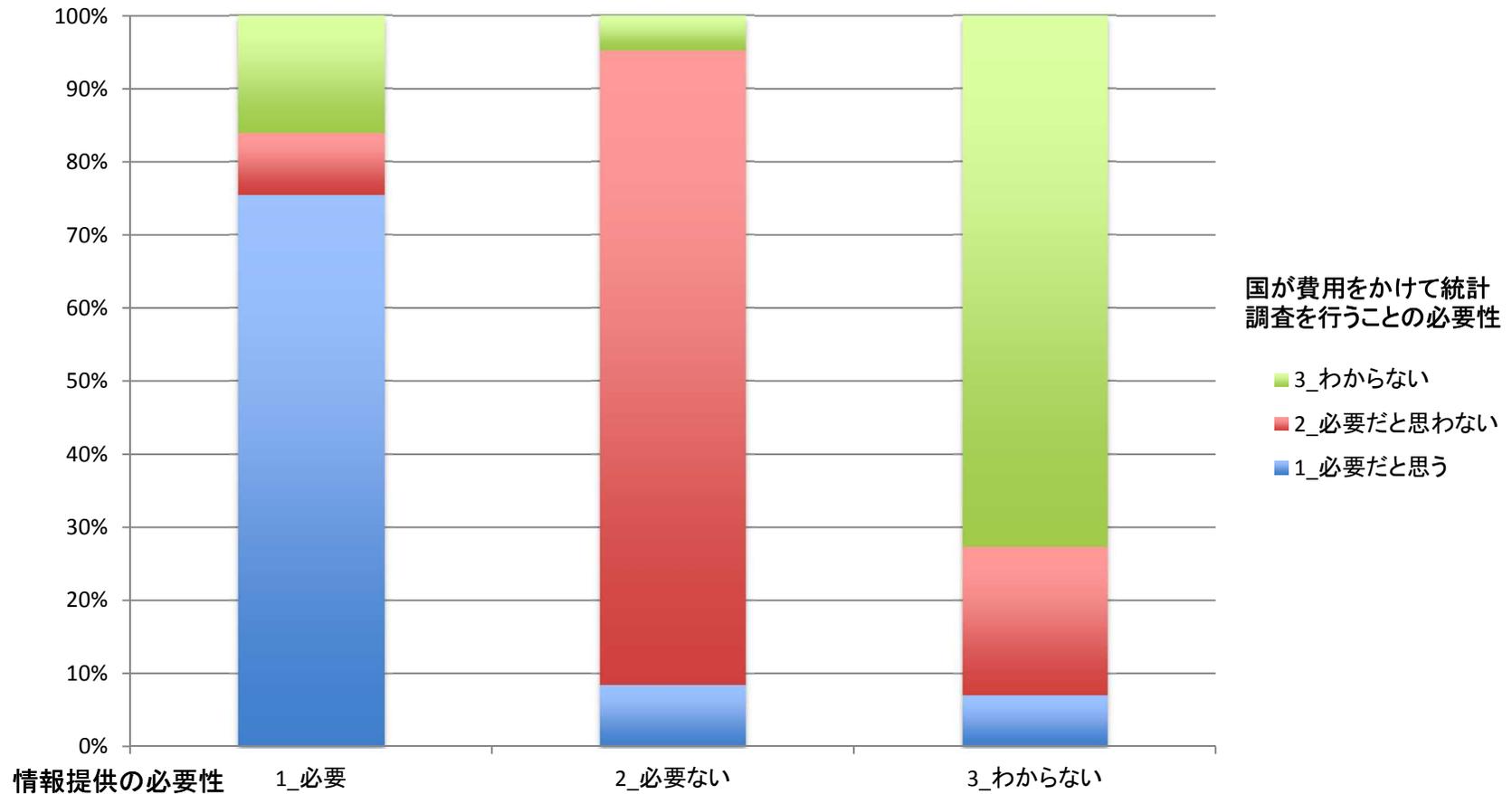


あなたは、先ほどQ13_1からQ13_9でご覧いただいたような情報を国民に提供するために、国が費用をかけて統計調査を行うことを必要だと思いますか。(回答は1つ)



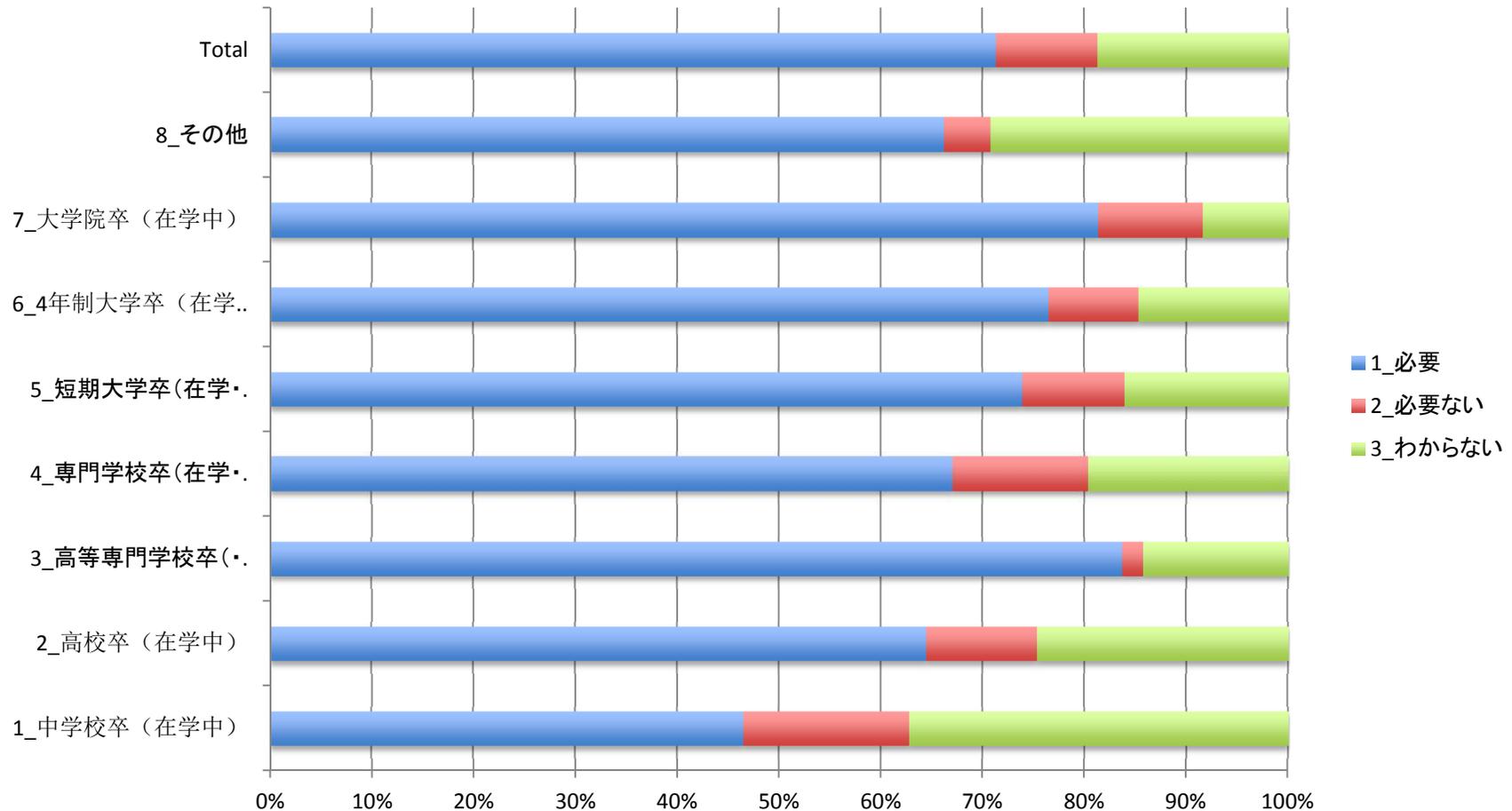
フリーライダーの存在

情報提供の必要性のクロス



情報提供は必要だが、費用をかけてまで調査する必要はないとする人が10%弱存在。

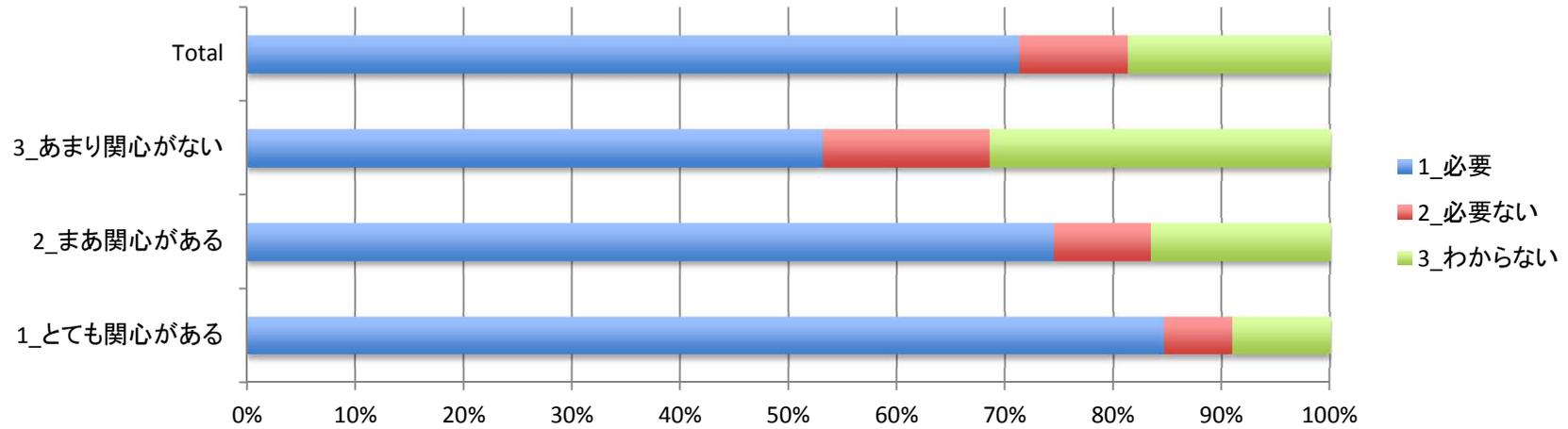
学歴別、情報提供の必要性



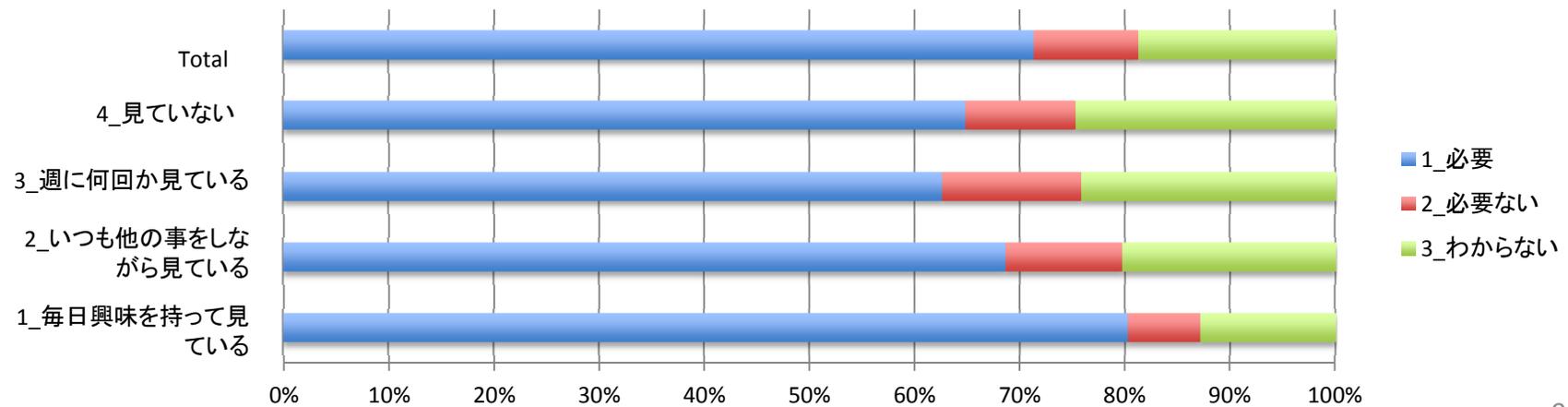
高学歴者ほど情報提供は必要と答える。

情報提供が必要なのはどのような人か

「政治に関心がある」人ほど情報提供は必要

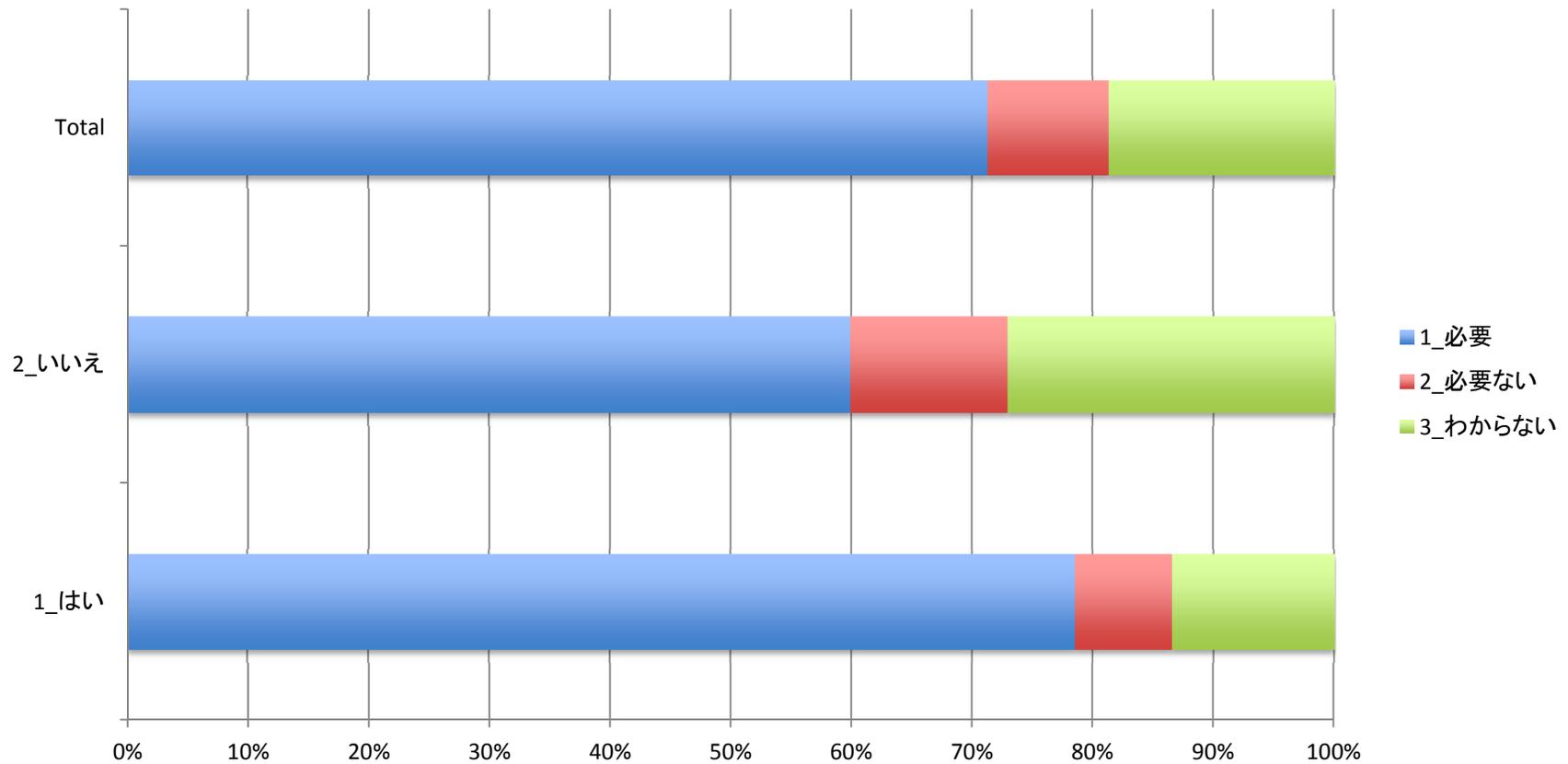


「TVのニュースを見ている」ほど情報提供は必要



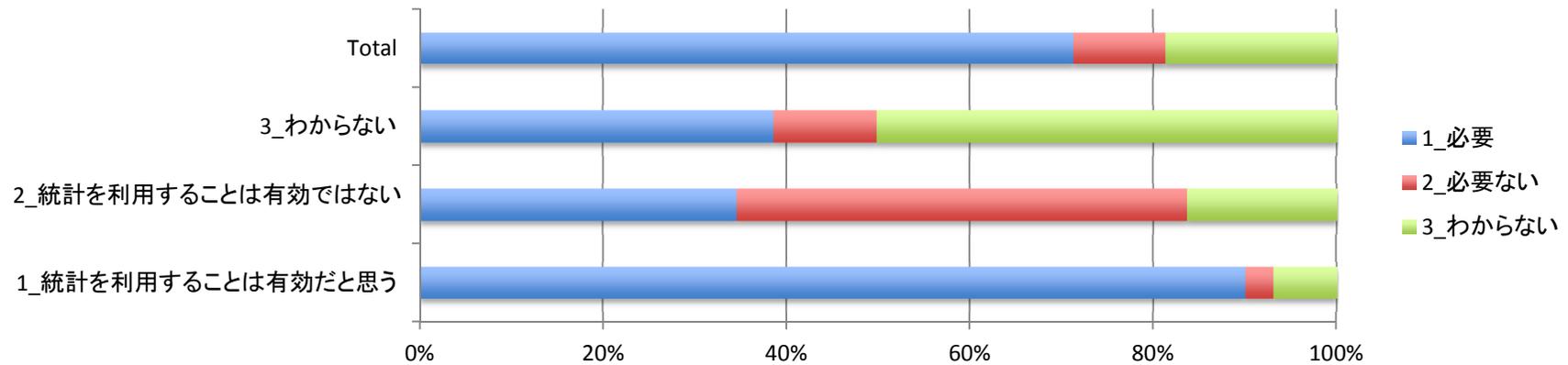
情報提供が必要なのはどういう人か

官公庁が実施する統計調査を知っている人ほど情報提供は必要

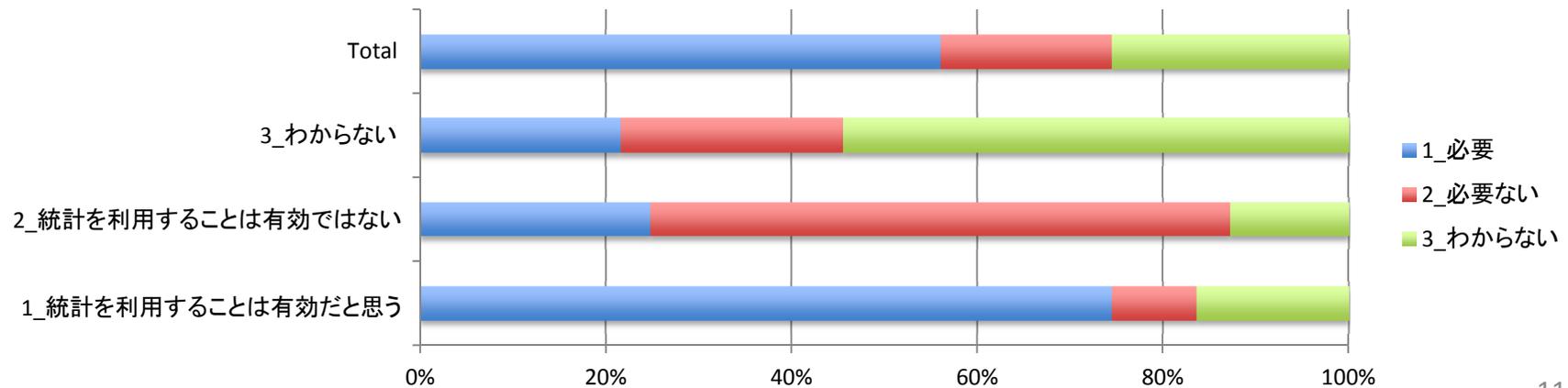


白書執筆や政策立案、政策評価のために統計調査を利用することを評価している人ほど情報提供は必要

情報提供は必要

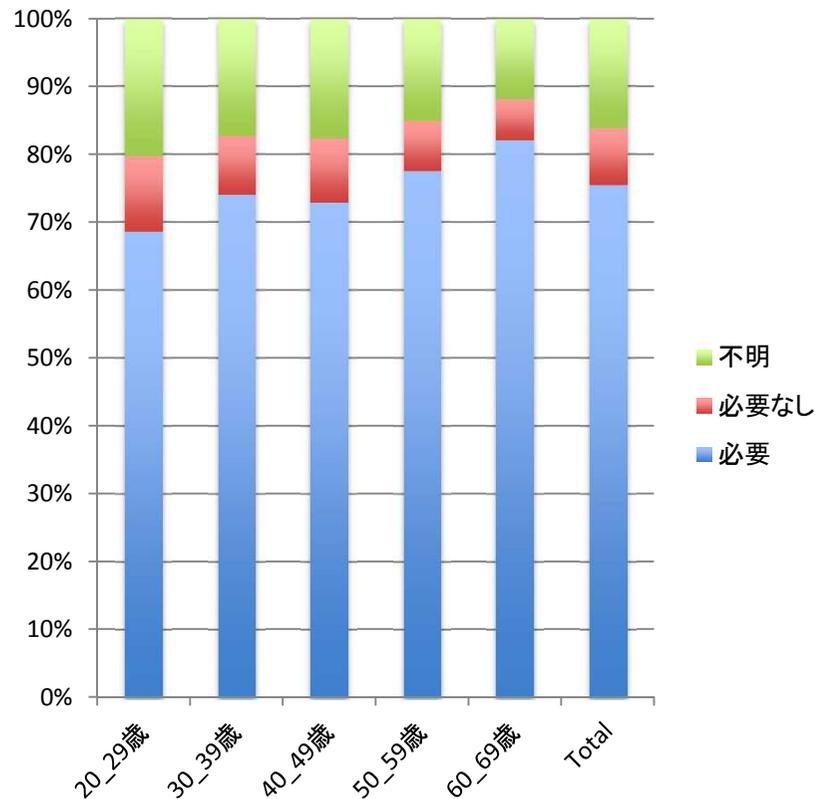


費用をかけて統計調査を行うことは必要

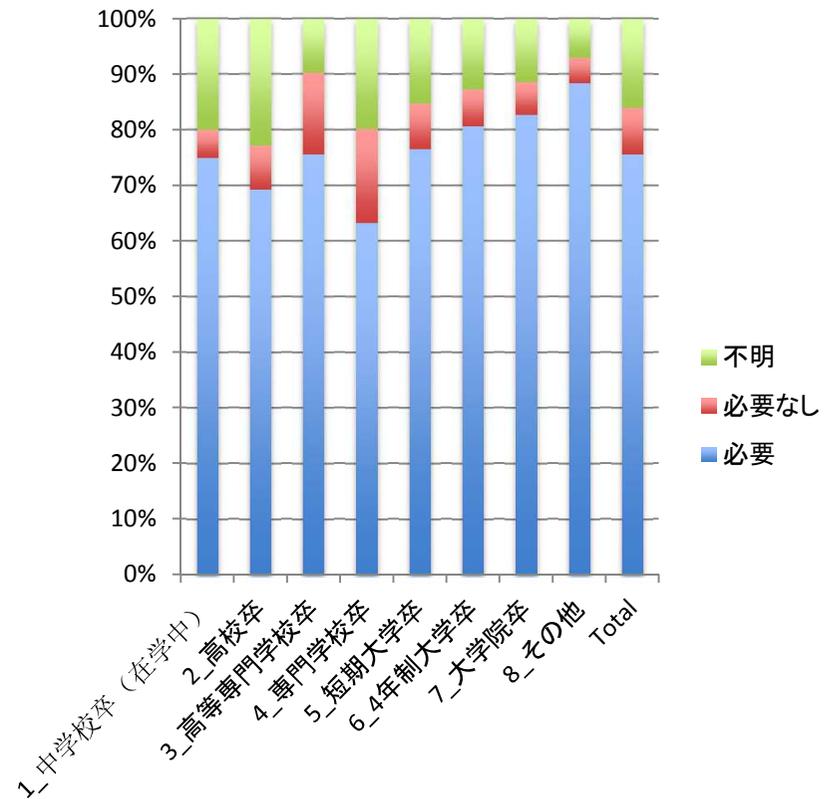


フリーライダーの特徴

年齢別では、若年でフリーライダーが多くなる。

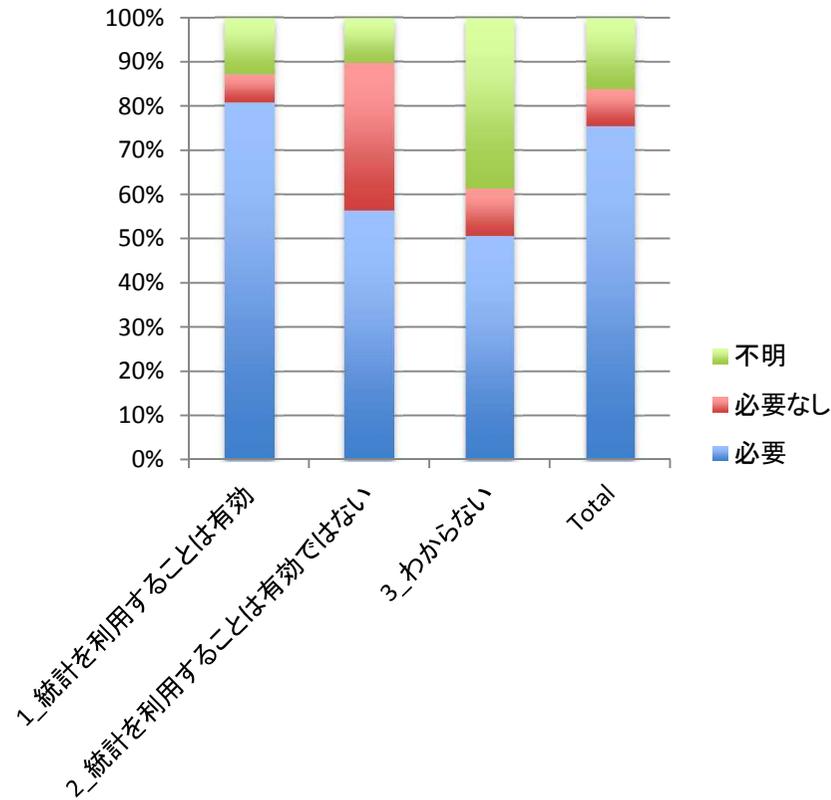


高等専門学校、専門学校卒でやや多い。

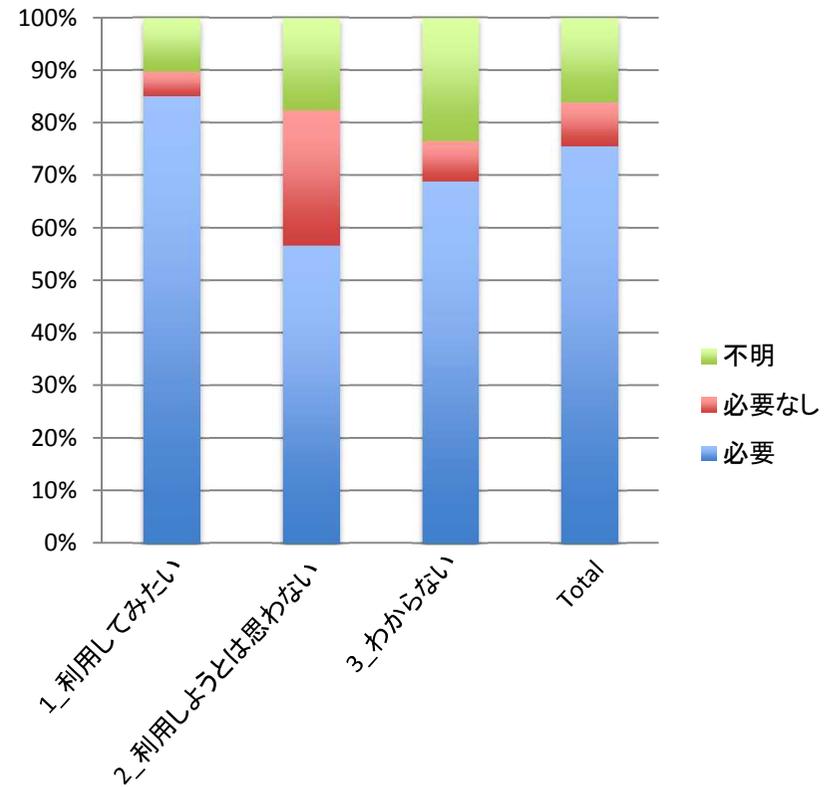


フリーライダーの特徴

白書執筆などに統計を利用することを評価しない人がフリーライダーに。

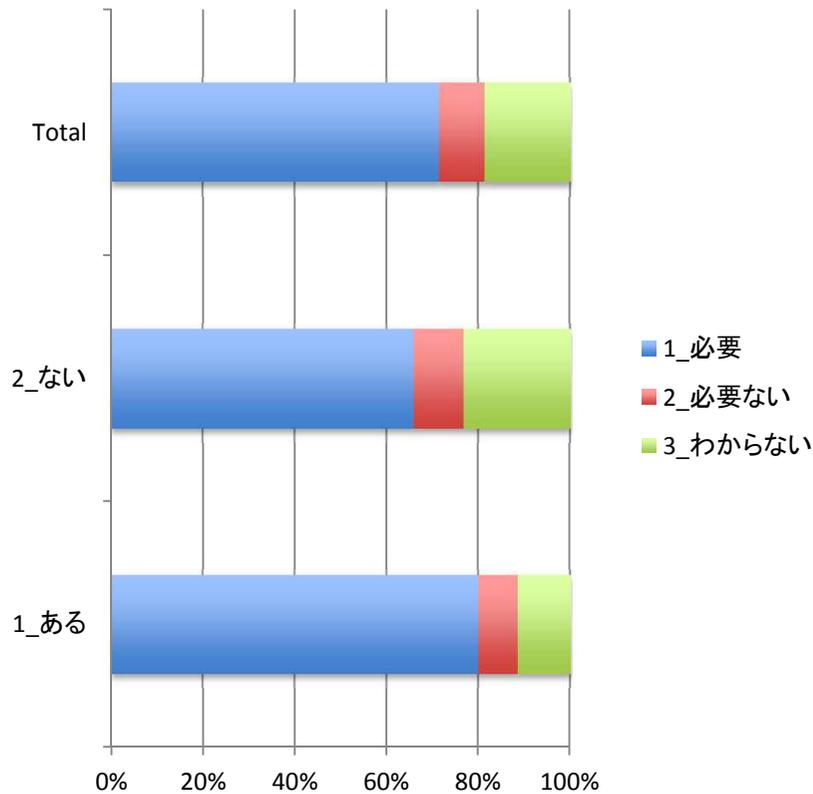


統計を利用しようと思わない人がフリーライダーに。



過去に統計調査に回答した経験と情報提供必要

過去に回答経験があると、調査には肯定的



過去に回答経験があってもフリーライダーが減るわけではない

